

手について考える



藤田医科大学岡崎医療センター
病院長、整形外科教授 鈴木 克侍 氏

教育随想



令和3年12月1日

12月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想……………	1
藤田医科大学岡崎医療センター 病院長、整形外科教授 鈴木 克侍 氏	
この人に聞く……………	2
JICAケニア事務所平和構築ソマリア担当 山田 彩乃 氏	
羅 針 盤……………	2
連尺小学校 校長 酒井 洋一	
ふれあい……………	3
東海中学校 教諭 稲吉 晃一	
特 集……………	4
未来へつなぐ岡崎版 SDGs	
お知らせ……………	6
フォト・ヒストリー…	8
全校が一堂に集まる一体感(平成6年)	
この本を……………	8

藤田医科大学岡崎医療センターには診療科が二十四あります。どの科も人間の健康になくってはならないものであり、それぞれの科に誇りがあります。私は整形外科に所属しています。整形外科は骨、関節、靭帯、筋、腱、神経、血管、皮膚など支持骨格、運動器を扱う科であり、運動器を介して、皆さまの健康に貢献することを誇りとしています。そのなかでも私はサブスペシャリティーとして上肢・手外科を専門としています。上肢、特に手はヒトが人間として生活するために最も必要な運動器であり、第二の脳といわれています。ヒトが猿から大きく進化した第一歩は、移動に利用する足の数を

四本から二本に減らして直立歩行し、余った二本の前足を手として使用して、大好物で貴重な栄養源である果物や木の実などを口で啜くわえて運ぶのではなく、両手で持って家族のもとにより大量に運ぶことを始めたことなのです。このあとは皆さまが御承知のように、手を使って道具を利用し、様々な作業を効率よくできるようにになりました。道具を頻繁に使うことによって手の動きは精密になり、手の動きが精密になることによって、道具がさらに進歩するというポジティブ・サイクルができあがり、文明が飛躍的に進歩し、今日の人類の繁栄ができあがりました。

この様な過程を経て、手はヒトが人間として生活する上で最も大切な臓器となりました。皆様も種々の疾病で手を使用できなくなったとき、非常に不便を感じられ、人間としての生活に支障をおぼえたことがありと存じます。私を含め、当院の上肢・手外科班は、手指から手関節、前腕、肘、上腕、肩、肩甲帯まで含めて上肢を一つの臓器として総合的に診療しています。

(すずき かつじ)



違いを受け入れられる社会に



JICAケニア事務所
平和構築ソマリア担当

山田 彩乃氏

二〇一二年、JICAの現職参加制度を利用し、青年海外協力隊に参加する。ザンビアでコミュニティ開発を担当した。帰国後に復職したが、平和構築の分野でさらに活動したいと思い、発展途上国の問題解決に直接取り組めるNGOに転職する。南スーダンで平和構築事業を担当した。その後、専門性を高めるためイギリスに留学。移民学修士課程で学んだ。現在はソマリアの平和構築事業に取り組み、人々が安心して暮らせる社会を目指して活動が続いている。

「青年海外協力隊に参加したきっかけは何ですか」

小学生のころから、「人の役に立ちたい」と思い、何かできることはないかと常に模索していました。成長するに

つれて、世界にある不平等を少しでも解消できるように行動したいという思いが強くなる一方でした。しかし、幼少のころに変わった子と思われ、周りから意見を否定されることが多かった私は、本当にやりたいことを素直に口に出すことができず、息苦しさを感じていました。

そんな時に、東日本大震災を目の当たりにしました。有事の際に専門性をもって貢献できるようにしたいという気持ちを抑えきれなくなり、家族を説得して協力隊に参加しました。

「現地での活動を通して感じられたことは」

南スーダンでは、国内避難民キャンプで活動しました。そこで暮らす全員が国外避難に耐える体力をもたず、支援を必要としていました。命の選択にも近い状況下で、誰にどのような支援をするのか、慎重に検討しなければなりません。そのため、実態をよく知る現地スタッフとともに、コミュニティのリーダーと、じっくり相談をし、信頼関係の構築に努めました。支援の具体的な内容について、納得してもらえらるまで説明するのはとても大変でした。

しかし、現地の人が望む解決方法や支援を提供できた時、コミュニティや団体の垣根を超え、そこで働く全ての人が、一つの目的に向かって一丸とすることができました。私はこの仕事の意義を実感し、取り組んできたことに少し自信をもつことができました。

現在活動しているソマリアでは、国際協力に関わる二つの省が、民族問題

における見解の相違で言い争っており、支援計画の作成どころではありませんでした。そこで、各省の民族問題に関する主張を聞き、間にある溝を埋めることから始めました。

一見、回り道のようにあっても、そこにある問題の一つ一つを解決に導くことが、結局は近道になることを知りました。また、これらの活動を通して、全く利害関係がなく、先入観にとらわれない第三者だからこそできることがあることを実感しました。こうした第三者であるという強みを最大限に生かし、今後も活動を進めていきたいと思っています。

「今後、どのような活動に取り組んでいきたいですか」

私は、互いの違いを尊重し合い、誰もが安心して過ごせる社会づくりを目標に活動をしています。

そんな社会を作るには、互いをよく理解するためのきっかけ作りが大切です。様々な視点からきっかけ作りができるように、自分自身の引き出しを増やし、状況に応じて対応できるようにしていきたいです。さらに、専門性を伸ばす勉強や新たな国での活動などにも積極的にチャレンジしていきたいと思っています。



氏名 やまだ あやの
生年月日 昭和六十一年九月十一日
出身校 根石小学校
甲山中学校

たちの中の一人一人

連尺小学校

校長 酒井 洋一



新任二年目の時、私の勤めていた中学校が研究発表会を行った。自分は、音楽の授業を公開するにあたり、指導案を何回も書き直しては、当時の指導員の先生に見ていただいた。先生からは、授業をつくる上で大切なことをたくさん教えていただいた。いちばん心に残っているのは、「指導案というのは、一部のできる子どもたちだけのものではない。学習に遅れがちな子や、なかなか思うようにできない子たちのために、どれだけ考えられているかが大切だ」ということだった。私は、まず本時の目標と全体の手だてを考え、それから音楽の苦手な子や歌が上手く歌えない子たちの顔を思い浮かべながら、指導上の留意点をあれこれ考えた。なかなかよいアイデアが浮かばず、「教師がその子の横に行って何度も範唱する」とか「歌の上手い子の横で見習って歌うように指示する」などぐらいいか書けなかった。

それから数年経ち、縁あって知的障害養護学校に勤めることになった。ここでは、できる子たちとできない子たちの、「たち」はなかった。例えば



三年生十三人

東海中学校

教諭 稲吉 晃一

女子バレーボール部に所属している三年生は十三人。入部から、誰一人欠けることなく頑張ってきた。私は、その中でも人一倍バレーボールに対する思いの強いAさんをキャプテンに任命し、チームを託してきた。

三年生となり、私との会話の中でAさんは「三年生十三人」という言葉を頻繁に使うようになった。バレーボールの選手登録は十二人であった。ここまで切磋琢磨してきた三年生の中で一人だけ、ユニフォームを着て試合に出ることができない。その現実に向面したAさんの葛藤が、そこに表れているように感じられた。しかし、Aさん自身、「三年生十三人」で最後の夏をどのように迎えたいのか、考えあぐねているようにも思えた。

六月、私はAさんに声を掛けた。

「夏の大会に向けて十二人を選ばなくてはいけない時期がやってきた。本当に頑張ってきたし、叶うことならば全員にユニフォームを渡したいがそれはできない。」Aさんは黙ってうつぶした。私は「三年生十三人」のチームのキャプテンとして何かやりたいことはないかな」と続けた。Aさんは、「少し考えさせてください」と言葉を残し、その日は帰っていった。この状況を打開する力をつけてほしい、きつとできるはず、そんな思いで、私はAさんを見守ることにした。

登録メンバー発表後、Aさんが私のところへきた。「先生、夏の大会が始まる前に、三年生全員でユニフォームを着て試合をする日を作ってくれませんか」と話した。Aさんが自ら考え、仲間を思って動き出した瞬間だった。ミーティングの中でAさんは「ユニフォームをもらえなくても同じチームメイトであることに変わりはない。ずっと一緒に頑張ってきた十三人でコートに立ってバレーをする機会がほしい」と思いを伝えた。仲間たちからも賛同の声が上がり、Aさんの提案は快諾された。市長杯が開幕する数日前、「大会でユニフォームを着られない子がいる。その子の気持ちも背負って大会に臨めるように気持ちを高めよう」

というAさんの言葉で、三年生十三人最後の試合が始まった。

試合が始まって間もなく、メンバーを外れてしまったBさんの目から涙がこぼれる。「コートの中で一緒にやるのは最後だよ。最後まで一緒に楽しんでやろう」と声を掛けるAさんの涙腺も緩んだ。Aさんはいつも以上に周りに声を掛け、メンバーから外れた子たちを中心にトスを上げていた。私は、Aさんのいきいきとバレーをする姿に成長を感じ、ほほえましく見守っていた。

試合後、「十三人でやってきた練習がとても大切でした。十三人のためにも、チームの目標が達成できるように頑張りました」と語るAさんの表情は充実感に満ち溢れていた。



指導案を立てるのも、四人いれば四人分、八人いれば八人分の単元目標と本時の目標を立て、その上で手だても人数分考えて個々の学習活動を構想した。さらに、それが個別ばらばらの活動にならないよう、全員で楽しく取り組める題材や授業展開を工夫して授業を行うことを学んだ。

六年間を経て再び中学校に戻った時は、当然かもしれないが、上手くできない子たちや集中しにくい子たちの方に、より目がいくようになった。その頃、ある同僚の先生が、何気なく言われたことを思い出す。「大体の子たちがついてこられる速さで授業を進めるようにはしているが、ほんの一握り、どうしてもついてこられない子を出してしまう」と。できない子どもを初めから切り捨てる先生は一人もいないと思う。しかし、実際は時間との勝負であり、工夫を重ねても全員が時間内に分かるペースで授業を進めるのはなかなか難しいということであろう。その先生は、時々、業後に個別に生徒を呼んで、丁寧に教えていた。

最近では、ユニバーサルデザインといって、障がい等のためにやりにくさや集中のしづらさを感じる人たちにとつても、学びやすく取り組みやすい環境を整えることが大切だと説かれる。また、一斉授業からの脱却、チーム学習の推進など、より主体的・対話的で深い学びをめざすための教育キーワードも目に耳に入る。言葉はいろいろあれど、日々の経験を積み重ねつつ、一人でも多くの子どもが「できた。分かった。自分も参加できてきているんだ」という実感をもてるような指導のあり方を、工夫し続けることが大切である。

未来へつなぐ岡崎版

SDGs



G15 陸の豊かさも守ろう

▲地域ぐるみで取り組む愛鳥活動 —縦割り親子探鳥会— (生平小)

16で分類することができるところから、これまで本市で取り組んできた実践はすでにSDGsの理念に該当するものばかりであると言える。今後も各校が自信をもって継続していくことこそがパートナーシップで目標を達成し、岡崎におけるSDGsのさらなる発展につながっていくはずである。

左に示すのは、市内の小中学校で行われている実践である。これらはすべてSDGsにおけるゴール(目標)1から16で分類することができる。ここから、これまで本市で取り組んできた実践はすでにSDGsの理念に該当するものばかりであると言える。今後も各校が自信をもって継続していくことこそがパートナーシップで目標を達成し、岡崎におけるSDGsのさらなる発展につながっていくはずである。

二〇一五年に国際連合で定められたSDGs(持続可能な開発目標)。SDGsとは、「誰一人取り残さない」という理念のもと、よりよい未来社会の実現を目指す世界共通の目標である。二〇三〇年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されている。1から16までのゴールは、社会、経済、環境といった現在、世界が直面する課題を網羅的に示している。その中で、ゴール17は、他とは性格が異なり、1から16までのゴールを成し遂げるための実施手段として定義されている。

企業や自治体が本格的な取り組みを進める中、教育現場においても、その取り組みを推進しようとする動きが加速している。一方で、取り組み方に対する戸惑いの声も依然として聞こえてくる。

17 パートナーシップで目標を達成しよう



▲パラリンピック競技「ゴールボール」に挑戦(六ツ美北中)



G3 すべての人に健康と福祉を



▲コロナと戦う医療従事者との交流(岡崎小)

G7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに



▲学校施設の環境への取り組みを見て学べる校内掲示(翔南中)



G4 質の高い教育をみんなに



▲ICTを活用した個別最適化学習(羽根小)



G10 人や国の不平等をなくそう



▲QRコードによる多言語対応プログラムと児童による多言語アナウンス(六ツ美西部小)



多言語で閲覧できます



G5 ジェンダー平等を実現しよう



▲制服選択制導入(矢作中)



G11 住み続けられるまちづくりを



▲地域と学ぶ防災教育(常磐東小)

G13 気候変動に具体的な対策を



▲低炭素社会実現に向けた節電の協力要請(新香山中)



G14 海の豊かさを守ろう



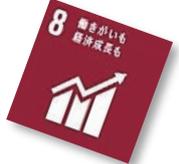
▲絶滅危惧種カワバタモロコ保護活動(東海中)



G16 平和と公正をすべての人に



▲生徒会主催の人権集会(矢作北中)





●教育最新情報

◆令和三年度全国学力・学習状況調査における岡崎市立小中学校児童生徒の結果について

1 調査分析概要（全国の平均正答率と比較して）

(1) 全体の様子
小学校においては、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」が「できている」状況である。算数の「数と計算」「図形」については「たいへんよくできている」、「測定」は「よくできている」、「変化と関係」、「データの活用」については「できている」状況である。
中学校においては、国語、数学についての項目も「できている」状況である。

(2) 小中学校別の各教科等に關する分析結果（左表）
2 岡崎市教育委員会の指導改善等の取組

3 留意点

(1) 国語、算数・数学における岡崎市の児童生徒の学力と、学習環境と学力との相関関係を詳細に分析し、学校での授業や家庭での生活習慣等の改善すべき内容を把握します。
(1)の分析結果を受け、その授業改善案等を教育委員会が各学校へ伝え、必要に応じて担当指導主事等が学校訪問を行い、改善状況を確認したり、指導したりします。
(3) 各学校で行っている「教育診断アンケート（学校評価）」を利用して、学校や教員が自己評価を行い、日々の授業の成果と課題を明らかにし、新たな授業改善の具体的な対策を立て、取り組むよう指示します。
(4) 教育委員会と学校は、家庭や地域と連携しながら、子供たちの生活習慣や学習環境が学力に反映すること

を周知し、改善を図る取組を行い、総合的な学力の向上に努めていきます。

3 留意点

(1) この調査は、子供たちの学習状況の改善を図るために参考とするものです。
(2) この調査で測定した学力や学習状況は、特定の一部分です。
(3) 学校では、成果と課題を把握し、授業改善に努めます。
(4) 家庭では、得意なこと、不得意なことを知り、また生活習慣の充実を図るなど、児童生徒が学習に意欲をもつて取り組める励ましや環境づくりをお願いします。



●表彰関係

◆第三回愛知県中学生新人陸上競技大会

- 男子一〇mH 藤田 唯央
男子走り幅跳び 辻本 智希
二位 福岡中

- 男子三〇〇m 伊藤 颯汰
二位 矢作北中

- 女子一〇〇mH 平塚 玲音
二位 東海中

◆第二十八回愛知県中学校カヌー大会新人戦

- 女子総合 新香山中 優勝
男女総合 新香山中 二位

- 男子カナディアン一人乗り 新香山中 一位
女子カヤック一人乗り 新香山中 一位

- 男子カヤック一人乗り 前田 芽依
二位 新香山中

◆第十回日本学校合奏コンクール二〇二二グランドコンテスト全国大会

- 中学校の部 塩谷 翼
銀賞 城北中
銅賞 福岡中

◆第六十五回日本学生科学賞

- 最優秀賞(名古屋市科学館賞) 美川中
最優秀賞(名古屋市科学館賞) 森田 晴空

- 北中 内田 峻雅
最優秀賞(名古屋市教育委員会賞) 六ツ美中 蜂須賀 蒼

◆愛知県中学生創造ものづくり教育フェア「創造アイデアロボットコンテスト」

- 優勝(東海・北陸地区大会に進出) 福岡中 本田 拓義
二位(東海・北陸地区大会に進出) 福岡中 池上 拓真

- 三位(東海・北陸地区大会に進出) 福岡中 本多 琢稔
福岡中 太田 朝仁

◆愛知県少年消防クラブ運営指導協議会表彰

- 表彰旗受賞クラブ 常磐東小

◆愛知県少年消防クラブ作品コンクール

- ポスターの部 運宮指導協議会長賞(準特選) 福岡小 宮本 怜奈

◆防火作品展

- 小学校六年習字の部 準特選 岩津小 坂本 さな

◆令和三年交通安全功労者等表彰式

- 交通安全優良校 大門小

令和3年度全国学力・学習状況調査 岡崎市の分析結果

〈小学校6年生〉

科	調査結果から捉えられる傾向
国語	<p>できている</p> <ul style="list-style-type: none"> 文の中における主語と述語や修飾と被修飾との関係を捉える力がたいへん優れている。 学年別配当漢字表に示されている漢字を文の中で使う力がよく身に付いている。 他者の考えを的確に捉え、自分の考えをまとめる力が身に付いている。 文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する力がやや弱い。 自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える力が弱い。
算数	<p>よくできている</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活の問題を解決するために、示された場面を解釈し、必要な数量やその関係を捉えながら、結果を適切に導く力がたいへん優れている。 基本図形や、複数の図形を組み合わせた図形の面積を求め方力がたいへん優れている。 ある量の何倍かを小数を用いて示す力がたいへん優れている。 問題を統計的に解決するために、どのようなデータを、どのように集めるかを判断する力はよく身に付いているが、データを表などに分類整理する力が弱い。
学習状況	<ul style="list-style-type: none"> 「毎日、同じくらの時刻に寝ている」児童は、そうでない児童に比べ高い正答率を得ている。 「携帯電話・スマートフォンやコンピュータを持っていない」と答えた児童は高い正答率を得ている。また、1日当たりのテレビゲーム（コンピュータ、携帯型、携帯電話、スマートフォンのゲームを含む）をする時間が短いほど高い正答率を得ている。 「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」と回答した児童は高い正答率を得ている。 読書については、時間が長いほど正答率が高いというわけではない。家庭学習の時間についても同様の結果が見られる。時間の長さではなく、主体的、効率的に取り組むことが効果を高められていると考えられる。
生活状況	<ul style="list-style-type: none"> 地域や社会に関わる活動に参加している児童の割合は、全国平均を上回っている。 毎日同じくらの時刻に寝たり起きたりする児童の割合は、全国平均を下回っている。

〈中学校3年生〉

科	調査結果から捉えられる傾向
国語	<p>できている</p> <ul style="list-style-type: none"> 場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読んだり、登場人物の言動の意味を考えたりしながら、内容を理解する力が身に付いている。 文脈に即して漢字を正しく読み取ることが身に付いている。 話合いの場面において、質問の意図を捉えたり、話す内容を考えたりする力は身に付いているが、話合いの話題や方向を捉える力がやや弱い。 相手や場に応じて敬語を適切に使う力が弱い。 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを表す力が弱い。
数学	<p>できている</p> <ul style="list-style-type: none"> 示された場面を解釈し、方程式に表す力がたいへん優れている。 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る力が身に付いている。 選択肢から正答を選んだり、計算問題を解いたりするなど、数学的な技能は身に付いているが、考えを記述して説明する力がやや弱い。 平行四辺形など、図形が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明する力が弱い。
学習状況	<ul style="list-style-type: none"> 「朝食を毎日食べる」「起床時刻が決まっている」「就寝時刻が決まっている」など、規則正しい生活を送る生徒の方が、高い正答率を得ている。 「新聞を読んでいる」生徒は、「読んでいない」生徒に比べ、正答率が高い。様々な事象に興味をもち、情報を得ることに楽しさを感じる生徒の方が、高い正答率を得ている。 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」生徒ほど、正答率が高い。自分に必要なことを考え、主体的に取り組める生徒が高い正答率を得ている。
生活状況	<ul style="list-style-type: none"> 「人の役に立つ人間になりたい」「人が困っているときは、進んで助けている」と答えた生徒の割合は、全国平均を上回っており、思いやりのある生徒が多い。 地域や社会に関わる活動に参加している生徒の割合は、全国平均を上回っている。

教職員の相談窓口

【対象】全教職員 【相談内容】・勤務のこと・家庭のこと・心や体のこと 等

番号	相談窓口	電話番号	相談受付日時
1	岡崎市教職員相談ダイヤル	0564-64-3322	火曜日～金曜日 12:00～19:00 土曜日 12:00～16:30
2	岡崎市こころのホットライン	0564-64-7830	月曜日～金曜日 13:00～20:00
3	愛知県総合教育センター教育相談	0561-38-2217	月曜日～金曜日 9:00～17:00
4	あいちこころのホットライン 365	052-951-2881	年中無休 9:00～16:30
5	名古屋いのちの電話	052-931-4343	年中無休 24時間

・カ
ツ
ト

福
岡
中
山
田
周

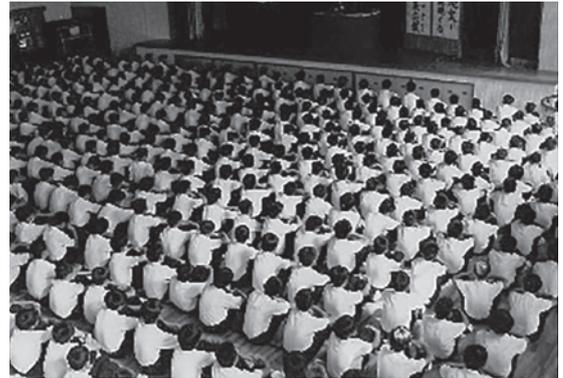
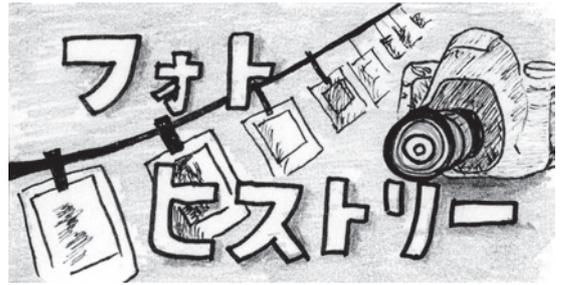
全校が一堂に集まる一体感 (平成6年)

写真提供：竜海中学校

夏の体育館で行われた式の様子である。当時の生徒数は一一五七名、旧体育館に全校生徒が集う。最前列は舞台のすぐ下で、おそらく壇上は見えていない。

生徒たちは一点を見つめ、身動き一つしない。肩と肩が触れ合い、隣の級友の息遣いを感じる。静寂の中、生徒たちの凜とした姿勢からは、忍耐力と、全員が一堂に会する一体感を大切にしようとした教師の思いを感じ取ることができる。

子供たちを取り巻く環境は、時代と共に変化している。しかし、どのような状況に直面しても、岡崎の教師たちは、子供たち一人一人の心がつながる一体感を大切に、学校としてのあるべき姿を目指していく。



「本当によく頑張ってきたし、叶うことならば全員にユニフォームを渡したい。」
教師の愛情のこもった言葉によって、キャプテン自ら考えて提案した『三年生十三人』最後の試合。流れる涙や充実感に満ち溢れた子供たちの表情に、部活動の本当の価値を考えさせられる。

どホ

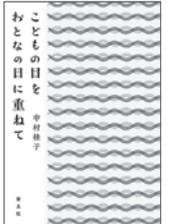
共に住みよい世の中を構築する上で、各自の役割を果たす。目標達成に向けて人とつながり、協力することが重要であるとしたSDGsの理念。それは決して難しいことではない。岡崎市の教育のこれまでの取り組みを継続、発展させていけば、明るい未来が拓けるはずである。

「辛いことは、未来への希望を見出せないこと」と話す山田さん。紛争地では、生きることだけが希望になる。だからこそ未来へのモチベーションを引き出せるように努める。その姿勢は、子供たちがよりよい未来へ一歩を踏み出せるように願う教育現場も同じである。



▲ミカンの収穫 (小豆坂小)

師走



*こどもの目をおとなの目に重ねて
中村 桂子
青土社 ¥1,800

心に残った一文
昨日のあなたと今日のあなたは違っている。

筆者は、JT生命誌研究館を設立し、現在は館長を務める。競争第一で発展に突き進んだ結果、息づまる社会をやわらかな視点で問直す。私たち人間は、生きものであるが「生きものである」とはどういうことか。完全な答えはないが、基本はシンプルに「生きていること」だと言う。

生きものの特徴は生まれることであり、その後も常に変化することである。近年、宇宙も138億年前に無から生まれ、膨張し続けていることが分かった。生成、変化こそ自然を見る時の大切な眼になってきた。

遙かな生きものの歴史を受け継ぐ私たち。新型コロナウイルスの存在に眼を向け、新しい生活様式を探るのは今である。

- *学校ってなんだ！ 工藤勇一・鴻上尚史 講談社 ¥990
- *かぞえきれない星の、その次の星 重松 清 KADOKAWA ¥1,870
- *あなたはあなたが使っている言葉でできている ゲイリジョンビショップ ディスカバー ¥1,650
恵田小学校 内山彩由実